

令和 6 年 6 月 26 日現在

機関番号：32690

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2020～2023

課題番号：20H01196

研究課題名（和文）近代日本における新カント派受容の歴史と意義 社会科学との交渉を中心に

研究課題名（英文）The History and Significance of the Reception of Neo-Kantianism in Modern Japan
— with a Focus on Its Relationship with the Social Sciences

研究代表者

伊藤 貴雄 (Ito, Takao)

創価大学・文学部・教授

研究者番号：70440237

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 6,900,000円

研究成果の概要（和文）：近代日本思想史において新カント派哲学が社会科学と接点をもった意義、ならびに当時の国際的な新カント派潮流における日本の思想家の位置づけについて学際的に解明した。全10回の研究会を行い、主な成果を『東洋学術研究』（東洋哲学研究所編）に「近代日本における価値哲学者の群像」と題して全5回連載した（2021～23）。ハイデルベルク、テュービンゲン、ベルリンで当時の日本人留学生に関する資料調査をし、マインツ大学カント研究所主催の国際ワークショップ「新カント派をめぐる日独の対話」（2023）で口頭発表するなど、ドイツの研究者たちとの交流を通して、日本の新カント派受容の稀有な領域的広がりを改めて確認した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

新カント派哲学を軸に据えることで、明治末期から大正期にかけての日本社会科学形成史の通時的・立体的把握を可能にしたこと、また、新カント派受容が経済・政治・法律等狭義の社会科学だけでなく教育・批評・文学にも及ぶ領域的広がりを有したことを解明したことに、学術的意義がある。かくして、戦前に展開された学際的ネットワークを改めて照射することで、学際性の持つ今日的可能性への示唆を得たこと、また東京高等商業学校/師範学校など京都学派以外の思想水脈の存在をも明らかにしたこと、さらに海外の新カント派研究者との連携を通して新カント派の継受を巡る国際比較研究へのキックオフを行ったことに、社会的意義がある。

研究成果の概要（英文）：This study clarified the influence of Neo-Kantianism on the social sciences in modern Japanese thought, as well as the position of Japanese thinkers in the international Neo-Kantian currents of the time, in an interdisciplinary manner. A total of ten research meetings were held, and the main results were serialised over five installments in the Journal of Oriental Studies (ed. by the Institute of Oriental Philosophy) under the title 'The Group of Value Philosophers in Modern Japan' (2021-23). The research team conducted a survey of documents on Japanese students at the time in Heidelberg, Tuebingen and Berlin, and made an oral presentation at the international workshop 'Japanese-German dialogue on Neo-Kantianism' (2023) organised by the Kant Institute at the University of Mainz, Germany. Through these exchanges with German scholars, we have confirmed and examined the rare and far-reaching academic scope of the reception of Neo-Kantianism in modern Japan.

研究分野：思想史

キーワード：新カント派 バーデン学派 価値哲学 受容史 近代日本 社会科学 学際性 国際性

様式 C - 19、F - 19 - 1 (共通)

1. 研究開始当初の背景

新カント派は、19世紀後半から20世紀初頭にわたるドイツを中心に、「カントに還れ」を標語に展開された哲学の潮流を指す。その影響は英・仏・伊・露などヨーロッパ全域に及び、日本では特に1910年代から積極的に受容され、大正～昭和初期を代表する思潮の一つとして知られる。その後現象学やマルクス主義の台頭に伴い、ドイツでは1920年頃から、日本でも30年代には思想界の前景から退き、以後久しく顧みられなかった。しかし、近年 F. C. Beiser, *The Genesis of Neo-Kantianism*, Oxford UP, 2014、S. Luft (ed.), *The Neo-Kantian Reader*, Routledge, 2015 等、国際的に再評価の動きが活発化しはじめ、日本においても受容史を精査し、世界における新カント派の潮流に位置づけるための基盤構築が必要になってきた。従来、日本での受容の特徴としては、新カント派諸理論の中でもバーデン学派（以下、新カント派）の「価値哲学」を重視した点、科学の成立条件を追究した同学派の理論を哲学以外の経済・政治・法律等社会科学にも応用して独自の形成を遂げた点が挙げられていたが、全容の解明にはほど遠かった。

2. 研究の目的

本研究は、明治末期から大正期にかけての近代日本において新カント派哲学が社会科学と接点をもった意義がどのようなものであるか、また、当時の国際的な新カント派の潮流に日本の思想家がどのように位置づけられるかを、学際的に解明するものである。すなわち、狭義の哲学にとどまらず、経済・政治・法律をはじめ社会科学各分野の代表的思想家に関する研究者が集結して共同研究することにより、新カント派を軸とした近代日本思想史の立体的再構成に取り組む。また、戦前に展開された学際性のあり方を検討することにより、その歴史的意義を究明し、これを通じて学際性の今日の可能性を再考する手がかりを見出す。さらに、海外の新カント派研究者との連携を通して、世界哲学史に占める近代日本哲学の特徴や意義を解明し、将来的には新カント派の継受を巡る国際比較研究を目指すものである。

3. 研究の方法

研究対象とする個々の思想家が新カント派哲学に見た意義や、それを継受した動機を明らかにするために、各思想家が残した資料を調査した。国内では東京造形大学附属図書館「上木文庫」(土田杏村関係資料)・東北大学附属図書館(ヴィンデルバント直筆ノート、ヴント文庫、ケーベル文庫)等の調査を行い、海外ではハイデルベルク(朝永三十郎・左右田喜一郎関係資料)・チュービンゲン(左右田喜一郎関係資料)・ベルリン(桑木巖翼・南原繁関係資料)の各大学附属図書館および各大学アーカイブの調査を行った。

また、近代日本において新カント派哲学と社会科学との交渉がもった総合的意義を明らかにするために定期的にオンラインによるミーティングや研究会を開催した。研究代表者・研究分担者・研究協力者が各々の専門分野に即して、個々の思想家を文化思想史(桑木巖翼・土田杏村) 経済思想史(左右田喜一郎・河合栄治郎) 政治思想史(南原繁・蠟山政道) 国際関係思想史(朝永三十郎) 法思想史(恒藤恭) 教育思想史(牧口常三郎)等の視角から再定位した。その際、京都学派(西田幾多郎・田辺元・三木清)だけでなく、東京高等商業学校/師範学校など京都学派以外の思想水脈の存在にも目配りするよう心がけた。

さらに、グローバルな思想運動としての新カント派という観点のもと、その研究を一層深めてゆく上で必要な国際的連携体制を構築するため、ハイデルベルク大学日本学研究所との情報共有、マインツ大学カント研究所主催の国際ワークショップ「新カント派をめぐる独日の対話」(Deutsch-Japanische Dialoge zum Neukantianismus, 2023)での口頭発表など、海外研究者との研究交流を積極的に行った。

4. 研究成果

(1) 資料調査

東京造形大学附属図書館「上木文庫」では土田杏村関係資料に当たり、未発表の直筆原稿が多く存在することが分かった。今後、同文庫目録化や直筆原稿翻刻も検討している。

東北大学附属図書館ではヴィンデルバント直筆ノート、ヴント文庫、ケーベル文庫等に当たり、19世紀末～20世紀初頭のドイツの哲学者たちの直筆資料や個人蔵書から、ドイツ本国でもまだ研究の層が薄い新カント派の法思想、美学思想、宗教思想に関する研究に日本が貢献できる可能性が見えてきた。

ハイデルベルク(朝永三十郎・左右田喜一郎関係資料) チュービンゲン(左右田喜一郎関係資料) ベルリン(桑木巖翼・南原繁関係資料)では、当時の日本人留学生の居住地や在学証明書等の調査を通して、彼らがドイツで誰から何を学んだかが具体的に見えてきた。

(2) 国内研究会

全10回の研究会をオンラインで開催し、研究代表者・分担者の全員が口頭発表した。また、新カント派およびその受容史を研究する若手研究者や大学院生も新たに研究協力者として迎え入れ、おそらく現時点で国内最大の新カント派研究ネットワークを構築できた。

1年目 = 2020年度

蓄積されてきた先行研究および各研究者の研究実績を整理した(第1~2回研究会)。日本における新カント派哲学と社会科学との関わりについて、当初は経済、法律、政治、教育といった分野ごとでの研究を考えていたが、チームで情報を共有するごとに、むしろ諸分野間の横断的なつながりが浮かび上がってきた。経済哲学(左右田喜一郎)における新カント派受容を範例に政治学(蟬山政道)の学問方法論が考究されたことは、その一例にすぎない。日本の社会学者たちは、新カント派哲学の命題や用語をアカデミズムにおけるいわば共通文法として活用し、各専門分野に関する方法論的省察(学問の成立条件に関する問い)に取り組んだのであった。その共通文法の活用の違いが、個々の思想家の持つ特徴であると言ってもよい。そうした研究のキックオフができたのがこの年の成果であった。

2年目 = 2021年度

明治末期から大正前期まで(1900年頃~1920年頃)の新カント派哲学の受容と展開を検討した(第3~4回研究会)。上記のような諸分野間の横断的なつながりは、学問の成立条件を問うという問題意識が日本の学术界に一種の文化現象として広がっていたことを示している。時代的にも米騒動や関東大震災等、次々と襲い掛かる困難な社会状況のなかにあって、改めて学問と社会との関係を密にし、生存権や選挙権についてもその理論的根拠を明確にする「文化主義」が時代潮流となった。こうした新カント派受容は帝国大学だけでなく、東京高等商業学校/師範学校等の系統にも及んでいた。またアカデミズム以外の在野の知識人たち(牧口常三郎のような教育者や横光利一のような作家など)における新カント派受容も、単なる知的ファッションではなく思考の中核をなすものだったことが明らかになった。

3年目 = 2022年度

大正後期から昭和初頭まで(1920年頃~1930年頃)の新カント派哲学の展開と様相を検討した(第6~8回研究会)。とくに第7回研究会は1日目に「朝永三十郎『カントの平和論』発刊100周年記念」として、2日目に「左右田喜一郎『文化価値と極限概念』発刊100周年記念」として開催し、文化主義の広がり、京都学派との関係にも光を当てた総括的なディスカッションを行った。当時は現在のような著作権に関する研究倫理が整備されていなかったため、各思想家の著作がどの程度海外文献を下敷きにしていたかテキストクリティークが必要であることが見えてきた。その上で、左右田喜一郎や土田杏村による外国語での著述活動や、その他の思想家の日本語での著述活動の意義を、改めて当時の国際的な新カント派潮流の水準において比較検討することが重要であることが浮かび上がってきた。

4年目 = 2023年度

昭和初頭から昭和ファシズム期まで(1930年頃~1945年頃)の新カント派哲学の展開と様相を検討した(第9~10回研究会)。新カント派が衰退したとされる昭和戦前期にも高等教育界では新カント派が教養として重視され続けたことが分かった。昭和戦前期を代表する思潮としては一般的に、マルクス主義、京都学派、日本主義の3つを挙げることが多いが、これらは新カント派との対決から生じてきた三派という見方もできる。日本ではドイツよりも長く1930年代まで新カント派の影響が続いたので、この時期でも、新カント派を貫いた哲学者(朝永三十郎)や、新カント派に回帰した教育学者(篠原助市など)、他の立場に移行しつつも新カント派的思考形式を残した哲学者(田辺元など)、多様な形態があった。それゆえ、新カント派を主軸に据えて当時の思想地図を描き直す必要が見えてきた。

(3) 国際的連携の構築

2022年度に、マインツ大学カント研究所(Margit Ruffing教授等)、ハイデルベルク大学日本学研究所(Hans Martin Krämer教授等)を訪問し、ドイツの研究者との情報交換を行った。その結果、日本における新カント派受容の領域的広がりが稀有のものであることが改めて確認された。なかでも、ドイツでは保守的立場に属すると思われるバーデン学派が、日本ではむしろ反ファシズムの思想軸として機能した面があったことは、日本の受容が持つ特徴として重要な研究課題であることが分かった。これらの研究交流を通して上記の両研究所からは、本研究チームの研究成果を積極的に外国語で紹介してほしいとの要請が寄せられた。

これを受けて2023年度、国際ワークショップ「新カント派をめぐる独日の対話」(2023年12月11~12日、マインツ大学カント研究所主催)の企画に携わり、本研究チームを代表して2名が口頭発表を行った。日本の新カント派受容史に関する先行研究と今後の課題について、また受容の一例として左右田喜一郎の価値哲学のグローバルな位置づけについて発表した。日本の新カント派受容が国際的水準での再評価に値することが分かり、今後の研究の可能性や交流の継続について意見交換できたことが大きな成果であった。

(4) 論文・出版等

研究代表者／分担者の他、研究協力者も加えて、主な研究成果を『東洋学術研究』（東洋哲学研究所編）に「近代日本における価値哲学者の群像」と題して全5回連載した（2021～23年）。中心的に扱った思想家としては南原繁、河合栄治郎、桑木巖翼、牧口常三郎、横光利一、田辺元、土田杏村等である。近代日本における新カント派受容史の概観、先行研究レビュー、今後の課題を考察した論考等も併せて掲載した。本連載は今後、新規書き下ろしも含めて東洋哲学研究所からの出版を予定しており、現在編集中である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計32件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 13件）

1. 著者名 伊藤貴雄	4. 巻 61(1)
2. 論文標題 牧口常三郎の価値哲学とそのコンテキスト 科学的教育学という構想の思想史的位置づけ(二)	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 東洋学術研究	6. 最初と最後の頁 288-303
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 伊藤貴雄	4. 巻 61(2)
2. 論文標題 牧口常三郎の価値哲学とそのコンテキスト 科学的教育学という構想の思想史的位置づけ(三)	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 東洋学術研究	6. 最初と最後の頁 258-273
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Shibasaki, Atsushi	4. 巻 31
2. 論文標題 Trilogy on the Ideas of International Cultural Relations in Japan: "How to Contemplate the Idea of 'International Relations'" (2015)/ "You ain't goin' nowhere: does IR never change?" (2000)/ "Two Cultures in International Cultural Relations Theory-Methodological Considerations" (2002)	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Journal of Global Media Studies	6. 最初と最後の頁 27-53
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 芝崎厚士	4. 巻 61(2)
2. 論文標題 近代日本における新カント学派受容史研究の対象と方法(上)	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 東洋学術研究	6. 最初と最後の頁 243-257
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 芝崎 厚士	4. 巻 21
2. 論文標題 [国際文化学 私の3冊] 国際文化学からグローバル文化学へ 「日本」からの投企	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 インターカルチュラル	6. 最初と最後の頁 240-245
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.57496/jsics.21.0_240	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Shibasaki, Atsushi	4. 巻 32
2. 論文標題 Trilogy on the Study of the Embryonic Movement of Global Cultural Exchange in Modern Japan: "From 'International Exchange Gathering (Tsudoi)' to HIF" (2019/20), "Study on the Hakone Conference (1988-97)" (2020), and "From 'Grand Design Theory' to 'Catalyst Theory' : International Relations Thought of Norihiro Ito" (2019/20)	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Journal of Global Media Studies	6. 最初と最後の頁 13-80
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Shibasaki, Atsushi	4. 巻 32
2. 論文標題 Report of the Sabbatical leave at EIB, From April 2017 to September 2018	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Journal of Global Media Studies	6. 最初と最後の頁 81-96
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 福谷茂	4. 巻 61(1)
2. 論文標題 田邊元における「弁証法」の形成 「文化」を手がかりとして	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 東洋学術研究	6. 最初と最後の頁 262-287
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松井慎一郎	4. 巻 21
2. 論文標題 戦争と道義 日本の天職論をめぐる問題	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 跡見学園女子大学 人文学フォーラム	6. 最初と最後の頁 6-25
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 松井慎一郎	4. 巻 17
2. 論文標題 書評 南原繁研究会編『今、南原繁を読む 国家と宗教をめぐる』	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 イギリス理想主義研究年報	6. 最初と最後の頁 26-28
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松井慎一郎	4. 巻 15
2. 論文標題 文献紹介 北河賢三・黒川みどり編『戦中・戦後の経験と戦後思想』、出原政雄・望月詩史編『「戦後民主主義」の歴史的研究』	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 同時代史研究	6. 最初と最後の頁 93-94
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 伊藤貴雄	4. 巻 60(2)
2. 論文標題 牧口常三郎の価値哲学とそのコンテクスト 科学的教育学という構想の思想史的位置づけ(一)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 東洋学術研究	6. 最初と最後の頁 120-144
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Ito, Takao	4. 巻 12
2. 論文標題 Religion and Ethics in Schopenhauer	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Voluntas: Revista Internacional de Filosofia	6. 最初と最後の頁 1-15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.5902/2179378667751	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 加藤泰史	4. 巻 59
2. 論文標題 人文科学研究の中の「尊厳」概念研究	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 立正大学人文科学研究所年報	6. 最初と最後の頁 1-13
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Hiroaki Ataka, Norishita Yamashita, Atsushi Shibasaki	4. 巻 34(2)
2. 論文標題 The Constraints of Change: Deconstructing the Westphalian Narrative in Theory and Practice	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 The Ritsumeikan journal of international studies	6. 最初と最後の頁 35-60
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 福谷茂	4. 巻 15
2. 論文標題 カントへの私の道	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 創価教育	6. 最初と最後の頁 77-90
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 松井慎一郎	4. 巻 60(1)
2. 論文標題 河合栄治郎の理想主義哲学とファシズム批判	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 東洋学研究	6. 最初と最後の頁 126-149
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大橋容一郎	4. 巻 22
2. 論文標題 近代日本における論理学移入とカント哲学	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本カント研究	6. 最初と最後の頁 39-50
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 大橋容一郎	4. 巻 1170
2. 論文標題 明治前期における論理学の位相	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 思想	6. 最初と最後の頁 54-69
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大橋容一郎	4. 巻 60(2)
2. 論文標題 桑木厳翼とベルリンの哲学	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 東洋学研究	6. 最初と最後の頁 77-97
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大橋容一郎	4. 巻 29
2. 論文標題 フィヒテとロマン主義	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 フィヒテ研究	6. 最初と最後の頁 32-37
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大橋容一郎	4. 巻 48
2. 論文標題 カントのカテゴリー論について	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 上智大学哲学科紀要	6. 最初と最後の頁 1-31
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 伊藤貴雄, 川口雄一	4. 巻 60(1)
2. 論文標題 序 新カント派価値哲学とその受容史	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 東洋学術研究	6. 最初と最後の頁 78-87
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 川口雄一	4. 巻 60(1)
2. 論文標題 南原繁の政治哲学: 「価値並行論」および「理想主義的社会主義」の思想史的位置をめぐって(一)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 東洋学術研究	6. 最初と最後の頁 88-125
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 川口雄一	4. 巻 60(2)
2. 論文標題 南原繁の政治哲学：「価値並行論」および「理想主義的社会主義」の思想史的位置をめぐって(二)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 東洋学術研究	6. 最初と最後の頁 98-119
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 伊藤貴雄	4. 巻 28
2. 論文標題 若きショーペンハウアーのフィヒテ研究ノート 『道徳論の体系』を中心に	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 フィヒテ研究	6. 最初と最後の頁 73-86
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Ito, Takao	4. 巻 101
2. 論文標題 The Kantian Framework of Schopenhauer's Ethics: Right, Justice, Compassion, and Asceticism	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Schopenhauer Jahrbuch	6. 最初と最後の頁 173-188
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 伊藤貴雄	4. 巻 25
2. 論文標題 コンテクストのなかのショーペンハウアー自然哲学 カント・シェリング・フィヒテのアナロジー論と対比しつつ	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 ショーペンハウアー研究	6. 最初と最後の頁 34-43
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Atsushi Shibasaki	4. 巻 27
2. 論文標題 Meine akademischen Erinnerungen, 1990-2018(Zweite Teil)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Journal of Global Media Studies	6. 最初と最後の頁 25-43
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 芝崎厚士	4. 巻 28
2. 論文標題 メティエとベダゴギーの往還錬成 : 『近現代日本と国際文化交流 グローバル文化交流研究のために』(有信堂高文社、2020年)をめぐるオンライン・ゼミの試み(2020.5.9-2020.7.25)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Journal of Global Media Studies	6. 最初と最後の頁 1-35
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 川口雄一	4. 巻 第129編第5号
2. 論文標題 思想・文化 三	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 史學雑誌	6. 最初と最後の頁 185-188
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 川口雄一	4. 巻 1160
2. 論文標題 戦時期における和辻哲郎と南原繁の「共同体」論：宗教・人格・國體をめぐって	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 思想	6. 最初と最後の頁 87-114
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計61件（うち招待講演 23件 / うち国際学会 1件）

1. 発表者名 伊藤貴雄
2. 発表標題 朝永三十郎『カントの平和論』とそのコンテクスト
3. 学会等名 令和4年度科学研究費助成事業（基盤研究（B））「近代日本における新カント派受容の歴史と意義～社会科学との交渉を中心に～」第7回研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 伊藤貴雄
2. 発表標題 左右田喜一郎の影響圏 教育哲学：牧口常三郎との関連
3. 学会等名 令和4年度科学研究費助成事業（基盤研究（B））「近代日本における新カント派受容の歴史と意義～社会科学との交渉を中心に～」第7回研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Ito, Takao
2. 発表標題 Experience and philosophy - Dewey's observations and speculations on Japan: Reading Dewey's Letters from China and Japan (1)
3. 学会等名 1st International Symposium on Global Citizenship Education "Restoring Learning to Daily Living: Global Citizenship and John Dewey"
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 伊藤貴雄
2. 発表標題 対話的リベラルアーツの試み 「啓蒙とは何か」を教材として
3. 学会等名 日本カント協会第47回学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 伊藤貴雄
2. 発表標題 左右田喜一郎と個別的因果律
3. 学会等名 南原繁研究会第223回例会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 伊藤貴雄・川口雄一
2. 発表標題 海外調査報告 ハイデルベルク、チュービンゲン、フライブルク、ベルリンを中心に
3. 学会等名 令和4年度科学研究費助成事業（基盤研究（B））「近代日本における新カント派受容の歴史と意義～社会科学との交渉を中心に～」第8回研究会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 加藤泰史
2. 発表標題 左右田喜一郎の哲学とその意義
3. 学会等名 令和4年度科学研究費助成事業（基盤研究（B））「近代日本における新カント派受容の歴史と意義～社会科学との交渉を中心に～」第7回研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 芝崎厚士
2. 発表標題 高橋良輔の国際政治哲学 グローバリゼーション・アドボカシー・時政学
3. 学会等名 世界政治研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 芝崎厚士
2. 発表標題 1922 = 自我・国家・国際関係 から2022 = 自我・国家・グローバル関係 の構想へ 国際関係認識論からみた『カントの平和論』
3. 学会等名 令和4年度科学研究費助成事業（基盤研究（B））「近代日本における新カント派受容の歴史と意義～社会科学との交渉を中心に～」第7回研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 芝崎厚士
2. 発表標題 Erasmus, Katekismus/Azuki-Baba, and Erasmus again: A global transcultural history of a wooden sculpture that connects people across borders and through centuries
3. 学会等名 Europainstitut, University of Basel, Workshop
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 福谷茂
2. 発表標題 左右田喜一郎の影響圏 京都学派：田邊元との関係
3. 学会等名 令和4年度科学研究費補助金（基盤研究B）「近代日本における新カント派受容の歴史と意義～社会科学との交渉を中心に～」第7回研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 福谷茂
2. 発表標題 国家と社会 その一元性と二元性
3. 学会等名 下伊那教育会哲学会（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 福谷茂
2. 発表標題 形而上学とは何か
3. 学会等名 創価大学人文学会講演会（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 福谷茂
2. 発表標題 現代芸術の哲学
3. 学会等名 長野県飯田市夏季研修講座（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 福谷茂
2. 発表標題 哲学者とジャーナリズム
3. 学会等名 長野県飯田市立飯田東中学校校内研修（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 福谷茂
2. 発表標題 カント vs. ライプニッツ 可能性様相をめぐる哲学者の戦い
3. 学会等名 カント読書会（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 福谷茂
2. 発表標題 トルストイ・モンテーニュ・セルバンテス 文学における時間と空間
3. 学会等名 創価大学共通基礎演習「若き日の読書」特別講演（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 福谷茂
2. 発表標題 哲学・神話・政治
3. 学会等名 下伊那教育会哲学研究会（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 福谷茂
2. 発表標題 アランにおけるストア主義とエピクロス主義
3. 学会等名 長野県飯田市立飯田東中学校校内研修（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 松井慎一郎
2. 発表標題 今後の河合栄治郎研究会の活動と未公開資料について
3. 学会等名 河合栄治郎研究会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 松井慎一郎
2. 発表標題 河合栄治郎における「国民的自由」 リベラリズムとナショナリズムとの関係
3. 学会等名 立正大学石橋湛山研究センター
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 川口雄一
2. 発表標題 桑木厳翼における「文化主義」の政治思想：「大正デモクラシー」の思想史的コンテクストをめぐって
3. 学会等名 南原繁研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 川口雄一
2. 発表標題 南原繁の政治哲学における「正義」概念：輪郭・内容からその形成過程へ
3. 学会等名 日本政治学会（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 川口雄一
2. 発表標題 南原繁の射水郡政（中間報告）
3. 学会等名 南原繁研究会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Ito, Takao
2. 発表標題 Religion and Ethics in Schopenhauer
3. 学会等名 The 9th Schopenhauer International Colloquium Brazil (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 伊藤貴雄
2. 発表標題 牧口価値論成立史に関する一考察
3. 学会等名 東洋哲学研究所第35回学術大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 伊藤貴雄
2. 発表標題 戦後日本の人間革命論 南原繁とその周辺
3. 学会等名 東洋哲学研究所・仏教思想研究会2021年度第3回研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 伊藤貴雄
2. 発表標題 牧口常三郎の価値哲学とそのコンテキスト
3. 学会等名 令和3年度科学研究費助成事業(基盤研究(B))「近代日本における新カント派受容の歴史と意義～社会科学との交渉を中心に～」第3回研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 伊藤貴雄
2. 発表標題 新カント派・左右田喜一郎・牧口常三郎 連載「近代日本における価値哲学者の群像」経過報告
3. 学会等名 南原繁研究会第211回例会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 伊藤貴雄
2. 発表標題 稲毛詔風・左右田喜一郎・牧口常三郎 カントと新カント派
3. 学会等名 東洋哲学研究所・第11プロジェクト（教育論）2021年度研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 加藤泰史
2. 発表標題 コロナ・トリアージをめぐるイタリアとドイツ
3. 学会等名 日本学術会議公開シンポジウム「コロナ禍におけるトリアージの問題――世界の事例から日本を考察する」
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 加藤泰史
2. 発表標題 人文科学研究における尊厳概念
3. 学会等名 立正大学人文科学研究所（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 加藤泰史
2. 発表標題 グローバル化の哲学思想/グローバル化と尊厳
3. 学会等名 上智大学プロフェッショナル・スタディーズ講座（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 加藤泰史
2. 発表標題 コロナ・パンデミックと人間の尊厳
3. 学会等名 日本学術会議哲学委員会公開シンポジウム
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 芝崎厚士
2. 発表標題 「近代日本における新カント派受容史」研究の課題と方法 グローバル文化交流研究からの考察と展望
3. 学会等名 令和3年度科学研究費補助金（基盤研究B）「近代日本における新カント派受容の歴史と意義～社会科学との交渉を中心に～」第4回研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 福谷茂
2. 発表標題 田邊元における文化と弁証法
3. 学会等名 令和3年度科学研究費補助金（基盤研究B）「近代日本における新カント派受容の歴史と意義～社会科学との交渉を中心に～」第3回研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 福谷茂
2. 発表標題 カント哲学へのアプローチ
3. 学会等名 牧口常三郎生誕 150 周年記念講演会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 福谷茂
2. 発表標題 哲学の現状とその背景 21世紀の展望
3. 学会等名 長野県飯田市夏季大学（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 福谷茂
2. 発表標題 科学とはなんだろうか いま、寺田寅彦を読む意義
3. 学会等名 長野県飯田市立飯田東中学校校内哲学研修（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 福谷茂
2. 発表標題 政治哲学の根本問題としてのアイデア論
3. 学会等名 下伊那哲学研究会（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 福谷茂
2. 発表標題 科学とはなにか
3. 学会等名 長野県飯田市立飯田東中学校校内研修（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 大橋容一郎
2. 発表標題 カントの論理の多様性
3. 学会等名 上智大学哲学会第95回大会シンポジウム「人間、理性、ロゴスを問う カント哲学からの視座」
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 大橋容一郎
2. 発表標題 桑木巖翼とベルリン大学
3. 学会等名 令和3年度科学研究費補助金（基盤研究B）「近代日本における新カント派受容の歴史と意義～社会科学との交渉を中心に～」第3回研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 川口雄一
2. 発表標題 第1次世界戦争期におけるB・ラッセルの政治哲学：南原繁の「正義」論の形成に関する予備的考察
3. 学会等名 南原繁研究会第10回夏季研究発表会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 川口雄一
2. 発表標題 近代日本における労働組合法案とその評価：内務官僚・南原繁の思想史的研究のために
3. 学会等名 南原繁研究会第212回例会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 伊藤貴雄
2. 発表標題 近代日本における新カント派哲学の受容の系譜 価値並行論とその周辺
3. 学会等名 南原繁研究会第9回夏期研究発表会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 伊藤貴雄
2. 発表標題 左右田喜一郎著『文化主義の論理』を読む
3. 学会等名 南原繁研究会第199回例会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 伊藤貴雄
2. 発表標題 左右田喜一郎『文化主義の論理』のコンテキスト
3. 学会等名 令和2年度科学研究費助成事業（基盤研究（B））「近代日本における新カント派受容の歴史と意義～社会科学との交渉を中心に～」第1回研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 加藤泰史
2. 発表標題 「大災害から命を守る」第一回：災害/尊厳/文化
3. 学会等名 愛知県立大学2020年度連続公開講座（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 加藤泰史
2. 発表標題 グローバル化の哲学思想/人間の尊厳
3. 学会等名 上智大学プロフェッショナル・スタディーズ講座（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 芝崎厚士
2. 発表標題 「文化」と「文化」の出会い グローバル交流研究のための覚書
3. 学会等名 日本国際政治学会2020年度研究大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 川口雄一
2. 発表標題 射水郡長時代の南原繁 再考：思想的 = 評伝的研究のための予備的整理
3. 学会等名 南原繁研究会・第9回夏季研究大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 川口雄一
2. 発表標題 南原繁の政治哲学における「国際的デモクラシー」の理念：近代日本におけるグローバル・ガバナンス論と「国民共同体」論との交渉
3. 学会等名 2020年度日本政治学会・分科会「世界経済の政治的トリレンマの問題に対する政治思想史的アプローチ」
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 川口雄一
2. 発表標題 南原繁の政治哲学：「価値並行論」および「理想主義的社会主義」の思想史的位置をめぐって
3. 学会等名 令和2年度科学研究費助成事業（基盤研究（B））「近代日本における新カント派受容の歴史と意義 社会科学との交渉を中心に」第2回研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 大橋容一郎
2. 発表標題 認識論と論理学 認識の論理に関する近代日本哲学の多様性
3. 学会等名 日本カント協会第45回学会シンポジウム「近代日本とカント哲学」
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 福谷茂
2. 発表標題 プラトンとアリストテレスー『国家』vs.『政治学』
3. 学会等名 下伊那哲学研究会（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 福谷茂
2. 発表標題 ヘノロジーとは何か カントから形而上学へ
3. 学会等名 2020年度京都哲学会公開講演会（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 福谷茂
2. 発表標題 国家論における西と東 プラトンと孔子
3. 学会等名 下伊那哲学研究会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 福谷茂
2. 発表標題 友情の思想史 「哲学の雰囲気」に向けて
3. 学会等名 飯田市立飯田東中学校校内研修（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 松井慎一郎
2. 発表標題 川面凡児と牧口常三郎 「信仰的競争」と「人道的競争」
3. 学会等名 東洋哲学研究所2021年1月度研究部員会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 松井慎一郎
2. 発表標題 河合栄治郎の理想主義哲学と社会批評
3. 学会等名 令和2年度科学研究費助成事業（基盤研究（B））「近代日本における新カント派受容の歴史と意義～社会科学との交渉を中心に～」第2回研究会
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計20件

1. 著者名 伊藤貴雄（編）、遠山義孝、神立孝一、堤林剣、堤林恵、西川ハンナ、杉山由紀男	4. 発行年 2022年
2. 出版社 第三文明社	5. 総ページ数 222
3. 書名 シュリーマンと八王子 「シルク」のまちに魅せられて	

1. 著者名 Yoichiro Takahashi, Takao Ito, Tsunafumi Takeuchi (ed.)	4. 発行年 2022年
2. 出版社 Koenigshausen & Neumann	5. 総ページ数 522
3. 書名 Das neue Jahrhundert Schopenhauers : Akten des Internationalen Forschungsprojekts anlaesslich des 200. Jubilaums von Die Welt als Wille und Vorstellung 2018-2020	

1. 著者名 土井健司、田坂さつき、加藤泰史（編）	4. 発行年 2022年
2. 出版社 青弓社	5. 総ページ数 224
3. 書名 コロナ禍とトリアージを問う	

1. 著者名 加藤泰史、後藤玲子（編）	4. 発行年 2022年
2. 出版社 法政大学出版局	5. 総ページ数 484
3. 書名 尊厳と生存	

1. 著者名 香川知晶，加藤泰史，建石真公子，齊尾武郎，児玉真美，美馬達哉，姫野友紀子，川口有美子，鍾宜錚，柏崎郁子，田中美穂，土井健司，梶田隆章	4. 発行年 2023年
2. 出版社 日本学術協力財団	5. 総ページ数 236
3. 書名 「人間の尊厳」とは	

1. 著者名 加藤泰史（編）	4. 発行年 2023年
2. 出版社 知泉書館	5. 総ページ数 292
3. 書名 コロナ・トリアージ 資料と解説	

1. 著者名 岩崎正洋（編），山本達也，今井宏平，前嶋和弘，小松志朗，野田遊，福田充，芝崎厚士，山崎望	4. 発行年 2022年
2. 出版社 ナカニシヤ出版	5. 総ページ数 288
3. 書名 ポスト・グローバル化と政治のゆくえ	

1. 著者名 山口輝臣、福家崇洋、織田健志、立本紘之、黒川伊織、牧野邦昭、近藤俊太郎、藤原辰史、福間良明、昆野伸幸、植村和秀、松井慎一郎、森靖夫、米谷匡史、藤田正勝、土田眞紀、重信幸彦、金山浩司、須永哲思、若井敏明、赤江達也、石川禎浩、渡部亮、堀川祐里、岩本真一	4. 発行年 2022年
2. 出版社 筑摩書房	5. 総ページ数 325
3. 書名 思想史講義【戦前昭和篇】	

1. 著者名 和田博文・山辺春彦（編）	4. 発行年 2023年
2. 出版社 平凡社	5. 総ページ数 357
3. 書名 近現代日本思想史 「知」の巨人100人の200冊	

1. 著者名 樋野興夫、宇野重規、大園誠、村井洋、鈴木規夫、森和博、加藤節、神野直彦、近藤信和、山口周三、高橋幸輝、川口雄一、沢目健介、田淵舜也、高木博義	4. 発行年 2022年
2. 出版社 横濱大氣堂	5. 総ページ数 256
3. 書名 南原繁における学問と政治	

1. 著者名 樋野興夫、前川喜平、西田彰一、高橋勇一、森和博、榎木憲一郎、山口周三、伊藤貴雄、大庭治夫、近藤和信、高原孝生	4. 発行年 2021年
2. 出版社 横濱大氣堂	5. 総ページ数 262
3. 書名 南原繁と戦後教育改革 意義と継承	

1. 著者名 Dieter Birnbacher, Matthias Kossler (ed.)	4. 発行年 2022年
2. 出版社 Koenigshausen&Neumann	5. 総ページ数 476
3. 書名 Das Hauptwerk: 200 Jahre Arthur Schopenhauer ,Die Welt als Wille und Vorstellung'	

1. 著者名 加藤泰史 (編著)	4. 発行年 2022年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 430
3. 書名 スピノザと近代ドイツ 思想史の虚軸	

1. 著者名 半澤朝彦 (編)、大中真、等松 春夫、芝崎祐典、福田宏、浜由樹子、齋藤嘉臣、福田義昭、阿部浩己、山本尚志、辻田真佐憲、五野井郁夫、前田幸男、細田晴子、井上実佳、井手上和代、池内恵、佐藤壮広、芝崎厚士	4. 発行年 2022年
2. 出版社 晃洋書房	5. 総ページ数 292
3. 書名 政治と音楽 国際関係を動かすソフトパワー	

1. 著者名 樋笠勝士 (編)、井奥陽子、大橋容一郎、岡本源太、小田部胤久、河合大介、桑原俊介、高橋陽一郎、津上英輔、津田菜里、内藤慧、長尾伸一、堀尾耕一、松本大輝、山内志朗	4. 発行年 2022年
2. 出版社 月曜社	5. 総ページ数 344
3. 書名 フィクションの哲学	

1. 著者名 板垣雄三、島園進、鈴木規夫、伊藤貴雄、宮崎文彦、晏可佳、加藤節、高木博義、山口周三、高橋勇一	4. 発行年 2020年
2. 出版社 横濱大氣堂	5. 総ページ数 190
3. 書名 今、南原繁を読む 国家と宗教とをめぐって	

1. 著者名 オノラ・オニール（加藤泰史監訳、網谷壮介、高畑祐人、城戸淳、宇佐美公生、高木駿、中澤武、木場智之、上野大樹、柳橋晃、津田菜里、馬淵浩二訳）	4. 発行年 2020年
2. 出版社 法政大学出版局	5. 総ページ数 502
3. 書名 理性の構成	

1. 著者名 加藤泰史、小倉紀蔵、小島毅（共編著）	4. 発行年 2021年
2. 出版社 法政大学出版局	5. 総ページ数 550
3. 書名 東アジアの尊厳概念	

1. 著者名 高橋良輔、山崎望（共編著）、中内政貴、中村長史、今井宏平、佐藤史郎、川名晋史、八木直人、大庭弘継、西海洋志、芝崎厚士（著）	4. 発行年 2021年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 324
3. 書名 時政学への挑戦 政治研究の時間論的転回	

1. 著者名 日本思想史事典編集委員会、日本思想史学会	4. 発行年 2020年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 744
3. 書名 日本思想史事典	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>国際日本文化研究センター共同研究（重点）「国際的文化発信のなかの日本像 柳澤健の学際的研究」 https://www.nichibun.ac.jp/ja/research/coop/2021/s512/</p>
--

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	芝崎 厚士 (Shibasaki Atsushi) (10345069)	駒澤大学・グローバル・メディア・スタディーズ学部・教授 (32617)	
研究分担者	川口 雄一 (Kawaguchi Yuichi) (10756307)	創価大学・文学部・非常勤講師 (32690)	
研究分担者	福谷 茂 (Fukutani Shigeru) (30144306)	創価大学・文学研究科・教授 (32690)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	松井 慎一郎 (Matsui Shinichiro) (50795101)	跡見学園女子大学・文学部・教授 (32401)	
研究分担者	加藤 泰史 (Kato Yasushi) (90183780)	椚山女学園大学・国際コミュニケーション学部・教授 (33906)	
研究分担者	大橋 容一郎 (Ohashi Yoichiro) (10223926)	上智大学・文学部・教授 (32621)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	九鬼 一人 (Kuki Kazuto) (30299169)	岡山商科大学・法学部・名誉教授 	
研究協力者	杉田 孝夫 (Sugita Takao) (40206412)	お茶の水女子大学・人間文化創成科学研究科・名誉教授 	
研究協力者	位田 将司 (Inden Masashi) (80581800)	日本大学・経済学部・准教授 	
研究協力者	大木 康充 (Oki Yasumichi)	大東文化大学・非常勤講師 	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	鈴木 亮三 (Suzuki Ryozo)	岡山大学・ヘルスシステム統合科学研究科・客員研究員	
研究協力者	玉田 龍太郎 (Tamada Ryutaro)	滝川中学校・高等学校・教諭	
研究協力者	久野 譲太郎 (Kuno Jotaro) (10755391)	同志社大学・人文科学研究所・嘱託研究員	
研究協力者	前川 健一 (Maegawa Kenichi) (20422355)	創価大学・文学研究科・教授	
研究協力者	田淵 舜也 (Tabuchi Shunya)	慶應義塾大学・法学研究科・特別研究員(DC1)	
研究協力者	渡邊 かよ子 (Watanabe Kayoko) (90220871)	愛知淑徳大学・文学部・教授	
研究協力者	ルフィン マルギット (Ruffing Margit)	マインツ大学・カント研究所・教授	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計1件

国際研究集会 Deutsch-Japanische Dialoge zum Neukantianismus	開催年 2023年～2023年
--	--------------------

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------